

平成 27 年 2 月 22 日 (日) 施行

第 139 回 日商簿記検定試験 2 級 解説

第 1 問

1. ① 建設工事代金(建設仮勘定に計上)最終回の支払い (3 回に分けて各 ¥10,000,000)
- | | | | |
|-------|------------|------|------------|
| 建設仮勘定 | 10,000,000 | 当座預金 | 10,000,000 |
|-------|------------|------|------------|
- ② 建設工事代金(建設仮勘定に計上)の総額 ¥30,000,000 を、**建物・修繕費**に振り替えた。
- | | | | |
|-----|------------|-------|------------|
| 建物 | 29,200,000 | 建設仮勘定 | 30,000,000 |
| 修繕費 | 800,000 | | |
2. ① **3 年分**の広告料金の支払い (前払費用【流動資産】 $\xrightarrow{1\text{年以上}}$ 長期前払費用【固定資産】)
- | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|
| 長期前払費用 | 2,700,000 | 普通預金 | 2,700,000 |
|--------|-----------|------|-----------|
- ② 計上した資産(長期前払費用)から当月分(1 か月分)の費用の計上
- | | | | |
|-------|--------|--------|--------|
| 広告宣伝費 | 75,000 | 長期前払費用 | 75,000 |
|-------|--------|--------|--------|
3. 受取利息手取額：¥15,000,000×1%(利率)=¥150,000
 仮払法人税等の控除：¥15,000,000×1%(利率)×20%=¥30,000
 (新)定期預金：(旧)定期預金 ¥15,000,000+受取利息 ¥150,000-仮払法人税等 ¥30,000
 =¥15,120,000
4. 修繕費：修繕費用 ¥6,000,000-修繕引当金(取崩し) ¥5,000,000=¥1,000,000
5. 固定資産税 ¥2,400,000 → 租税公課
 不動産取得税(土地の取得原価に含める) → 土地
 未払計上 → 未払金

第 2 問

平成 25 年 1 月 1 日 備品購入時

備品 A	備品	200,000	現金	200,000
------	----	---------	----	---------

備品 B	備品	320,000	現金	320,000
------	----	---------	----	---------

平成 25 年 10 月 1 日 備品購入時

備品 C	備品	160,000	現金	160,000
------	----	---------	----	---------

平成 25 年 12 月 31 日 減価償却時

備品 A の償却：¥200,000÷5 年=¥40,000

備品 B の償却：¥320,000÷8 年=¥40,000

備品 C の償却：¥160,000÷4 年×(3 か月/12 か月)=¥10,000 【10 月 1 日購入～決算日 3 か月で計算】

∴ 問 1 25 年度備品の減価償却費の総額：A ¥40,000+B ¥40,000+C ¥10,000=¥90,000

平成 26 年 1 月 1 日 備品 A 売却時

備品減価償却累計額	40,000	備品	200,000
現金	100,000		
固定資産売却損	60,000		

∴ 問 2 備品 A の売却損：¥60,000

平成 26 年 12 月 31 日 減価償却時

備品 B の償却 : $\text{¥}320,000 \div 8 \text{ 年} = \text{¥}40,000$

備品 C の償却 : $\text{¥}160,000 \div 4 \text{ 年} = \text{¥}40,000$

減 価 償 却 費 80,000	備品減価償却累計額 80,000
------------------	------------------

∴ 問 3 26 年度備品の減価償却費の総額 : $B \text{ ¥}40,000 + C \text{ ¥}40,000 = \text{¥}80,000$

∴ 問 4

備品勘定の記入

26・1・1 前期繰越(借方) : 備品 A $\text{¥}200,000 +$ 備品 B $\text{¥}320,000 +$ 備品 C $\text{¥}160,000 = \text{¥}680,000$

26・1・1 諸 口(貸方) : 備品 A 売却時の仕訳より備品勘定の貸方に $\text{¥}200,000$ を記入

12・31 次期繰越(貸方) : 貸借差額で $\text{¥}480,000$ を記入

備品減価償却累計額の記入

26・1・1 備 品(借方) : 備品 A 売却時の仕訳より備品勘定の借方に $\text{¥}40,000$ を記入

26・1・1 前期繰越(貸方) : 25 年度償却時 備品 A $\text{¥}40,000 +$ 備品 B $\text{¥}40,000 +$ 備品 C $\text{¥}10,000$
= $\text{¥}90,000$

12・31 減価償却費(貸方) : 26 年度償却時 備品 B $\text{¥}40,000 +$ 備品 C $\text{¥}40,000 = \text{¥}80,000$

12・31 次期繰越(借方) : 貸借差額で $\text{¥}130,000$ を記入

平成 27 年 1 月 1 日 備品 B 除却時 (定額法)

備品減価償却累計額 80,000	備 品 320,000
貯 蔵 品 50,000	
固定資産除却損 190,000	

備品減価償却累計額 : 25 年度 $\text{¥}40,000 +$ 26 年度 $\text{¥}40,000 = \text{¥}80,000$

貯 蔵 品 : 問題文より $\text{¥}50,000$

固定資産除却損 : 貸借差額で $\text{¥}190,000$

∴ 問 5 備品 B の除却損 : $\text{¥}190,000$

平成 27 年 1 月 1 日 備品 B 除却時 (定率法)

備品減価償却累計額 140,000	備 品 320,000
貯 蔵 品 50,000	
固定資産除却損 130,000	

25 年度償却 : $\text{¥}320,000 \times 25\% = \text{¥}80,000$

26 年度償却 : $(\text{¥}320,000 - \text{¥}80,000) \times 25\% = \text{¥}60,000$

備品減価償却累計額 : 25 年度 $\text{¥}80,000 +$ 26 年度 $\text{¥}60,000 = \text{¥}140,000$

貯 蔵 品 : 問題文より $\text{¥}50,000$

固定資産除却損 : 貸借差額で $\text{¥}190,000$

∴ 問 6 備品 B の除却損 : $\text{¥}130,000$

第3問

修正事項

1. 約束手形回収の未処理

当座預金	400,000	受取手形	400,000
------	---------	------	---------

2. 火災損失の訂正仕訳 **26年4月10日**に当座預金に入金される → 未収金

未収金	1,000,000	火災損失	1,000,000
-----	-----------	------	-----------

決算整理

1. 期末商品の評価・売上原価の計算

仕入	3,700,000	繰越商品	3,700,000
繰越商品	4,000,000	仕入	4,000,000
棚卸減耗損	150,000	繰越商品	150,000
商品評価損	240,000	繰越商品	240,000
仕入	390,000	棚卸減耗損	390,000
		商品評価損	240,000

2. 貸倒引当金の設定

貸倒引当金繰入	14,000	貸倒引当金	14,000
---------	--------	-------	--------

受取手形の貸倒引当金(B/S) : $¥(2,530,000 - 400,000) \times 1\% = ¥21,300$

売掛金の貸倒引当金(B/S) : $¥2,670,000 \times 1\% = ¥26,700$

貸倒引当金繰入(P/L) : $¥21,300 + ¥26,700 - ¥34,000 = ¥14,000$

3. 減価償却

減価償却費	1,387,500	建物減価償却累計額	450,000
		備品減価償却累計額	937,500

減価償却の記帳は**直接法**により、

建物の取得原価(定額法)を X とおいて、

$$X - \{0.9X \times (20 \text{年} / 40 \text{年})\} = ¥11,000,000 \quad \therefore X = ¥20,000,000$$

建物の当期減価償却(定額法) : $¥20,000,000 \times 0.9 \div 40 \text{年} = ¥450,000$

減価償却累計額(B/S) : $¥450,000 \times 21 \text{年} = ¥9,450,000$

備品の取得原価(定率法)を Y とおいて、

$$Y - 25\%Y = ¥3,750,000 \quad \therefore Y = ¥5,000,000$$

備品の前期減価償却(定率法) : $¥5,000,000 \times 25\% = ¥1,250,000$

当期減価償却(定率法) : $(¥5,000,000 - ¥1,250,000) \times 25\% = ¥937,500$

減価償却累計額(B/S) : $¥1,250,000 + ¥937,500 = ¥2,187,500$

4. 消費税(税抜方式)の処理

仮受消費税	2,100,000	仮払消費税	1,650,000
		未払消費税	450,000

5. 退職給付費用の計上

退職給付費用	300,000	退職給付引当金	300,000
--------	---------	---------	---------

6. 預金利息

未収収益	1,250	受取利息	1,250
------	-------	------	-------

$$¥1,000,000 \times 0.3\% \times (5 \text{か月} / 12 \text{か月}) = ¥1,250$$

7. 長期借入金利息

支 払 利 息	90,000	未 払 費 用	90,000
---------	--------	---------	--------

$$\yen 9,000,000 \times 4\% \times (3 \text{ か月} / 12 \text{ か月}) = \yen 90,000$$

8. 支払地代の繰り延べ

前 払 費 用	60,000	支 払 地 代	60,000
---------	--------	---------	--------

$$\yen 780,000 \times (1 \text{ か月} / 13 \text{ か月}) = \yen 60,000$$

9. 法人税の計上

法人税、住民税及び事業税	500,000	仮 払 法 人 税 等	200,000
		未 払 法 人 税 等	300,000

損 益 計 算 書

自平成25年4月1日 至平成26年3月31日

(単位：円)

I 売 上 高		42,000,000
II 売 上 原 価		
1 期 首 商 品 棚 卸 高	3,700,000	
2 当 期 商 品 仕 入 高	33,000,000	
合 計	36,700,000	
3 期 末 商 品 棚 卸 高	4,000,000	
差 引	32,700,000	
4 棚 卸 減 耗 損	150,000	
5 商 品 評 価 損	240,000	33,090,000
売 上 総 利 益		8,910,000
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		
1 給 料	1,920,000	
2 通 信 費	369,750	
3 貸 倒 引 当 金 繰 入	14,000	
4 減 価 償 却 費	1,387,500	
5 退 職 給 付 費 用	300,000	
6 支 払 地 代	720,000	4,711,250
営 業 利 益		4,198,750
IV 営 業 外 収 益		
1 受 取 利 息		1,250
V 営 業 外 費 用		
1 支 払 利 息	270,000	
2 有 価 証 券 売 却 損	360,000	630,000
経 常 利 益		3,570,000
VI 特 別 利 益		
1 固 定 資 産 売 却 益		430,000
VII 特 別 損 失		
1 火 災 損 失		2,000,000
税 引 前 当 期 純 利 益		2,000,000
法人税、事業税及び住民税		500,000
当 期 純 利 益		1,500,000

第4問

要注意：直接配賦法のため、補助部門費は第1・第2製造部の用役消費割合だけで配賦する。

部門別配賦

1. 修繕部費：配賦基準 → 修繕回数

$$\text{第1製造部へ： } ¥9,000,000 \times \frac{60}{60+30} = ¥6,000,000$$

$$\text{第2製造部へ： } ¥9,000,000 \times \frac{30}{60+30} = ¥3,000,000$$

2. 材料倉庫部費：配賦基準 → 材料出庫額

$$\text{第1製造部へ： } ¥7,000,000 \times \frac{20,000}{20,000+15,000} = ¥4,000,000$$

$$\text{第2製造部へ： } ¥7,000,000 \times \frac{15,000}{20,000+15,000} = ¥3,000,000$$

3. 工場事務部費：配賦基準 → 従業員数

$$\text{第1製造部へ： } ¥8,000,000 \times \frac{52}{52+48} = ¥4,160,000$$

$$\text{第2製造部へ： } ¥8,000,000 \times \frac{48}{52+48} = ¥3,840,000$$

∴ 第1製造部門費合計：¥65,760,000 + ¥6,000,000 + ¥4,000,000 + ¥4,160,000 = ¥79,920,000

第2製造部門費合計：¥48,960,000 + ¥3,000,000 + ¥3,000,000 + ¥3,840,000 = ¥58,800,000

製造間接費の配賦

1. 第1製造部門への配賦

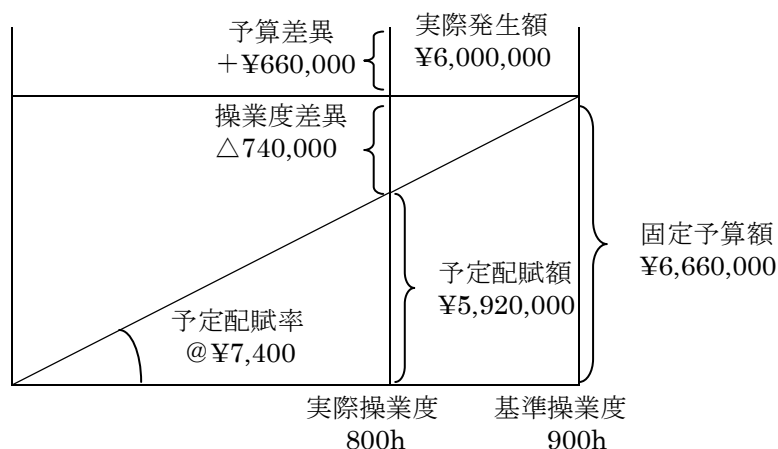
予定配賦率 = ¥79,920,000 ÷ 10,800 時間 = ¥7,400

予定配賦額 = ¥7,400 × 800 時間 = ¥5,920,000

2. 第2製造部門への配賦

予定配賦率 = ¥58,800,000 ÷ 12,000 時間 = ¥4,900

製造間接費配賦差異の把握（第1製造部門）



* 配賦率(変動費率・固定費率)が不明なので、**固定予算**により差異分析

基準操業度：10,800 時間 ÷ 12 か月 = 900 時間

予算差異：¥7,400 × 900 時間 - ¥6,000,000 = ¥660,000 (貸方差異)

操業度差異：@ ¥7,400 × (800 時間 - 900 時間) = △ ¥740,000 (借方差異)

第5問

損益計算書の作成

1. 売上高：¥1,120,000
2. 変動売上原価：¥812,000－¥168,000＝¥644,000
3. 変動売上製造マージン：¥1,120,000－¥644,000＝¥476,000
4. 変動販売費：¥203,000－¥24,000－¥95,000＝¥84,000
5. 貢献利益：¥476,000－¥84,000＝¥392,000
6. 製造固定費：¥168,000
7. 固定販売費および一般管理費：¥24,000＋¥95,000＝¥119,000
8. 営業利益：¥392,000－¥168,000－¥119,000＝¥105,000

損益分岐点売上高の計算

$$\text{貢献利益率} = \frac{\text{貢献利益}}{\text{売上高}} \times 100 = \frac{\text{¥}392,000}{\text{¥}1,120,000} \times 100 = 35\%$$

$$\text{損益分岐点売上高} = \frac{\text{固定費}}{\text{貢献利益率}} = \frac{\text{¥}168,000 + \text{¥}119,000}{35\%} = \text{¥}820,000$$

営業利益¥140,000を達成するために必要であった売上高

$$\begin{aligned} \text{希望営業利益を達成するための売上高} &= \frac{\text{固定費} + \text{希望営業利益}}{\text{貢献利益率}} = \frac{\text{¥}168,000 + \text{¥}119,000 + \text{¥}140,000}{35\%} \\ &= \text{¥}1,220,000 \end{aligned}$$